２０２４年１月２８日

ビルド

インマヌエル綜合伝道団
外から見たインマヌエル
日本から、世界から

本日の学びの内容

（１）イムマヌエル綜合伝道団はどのように誕生したのか？

（２）イムマヌエル綜合伝道団とは何か？他の教団・教会と違う点があるのか？

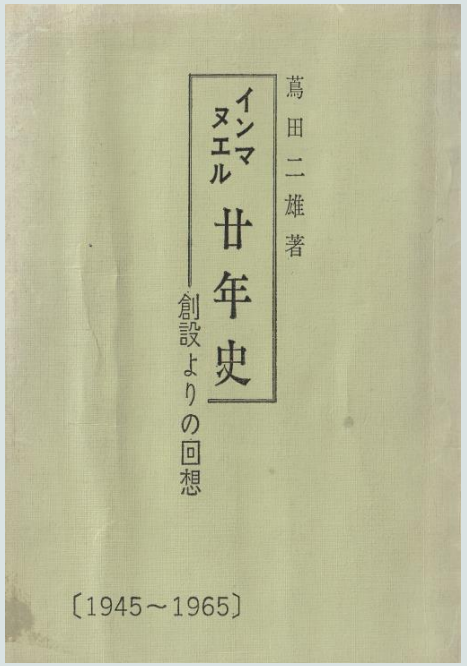
（３）日本とアジアの中のイムマヌエル綜合伝道団について

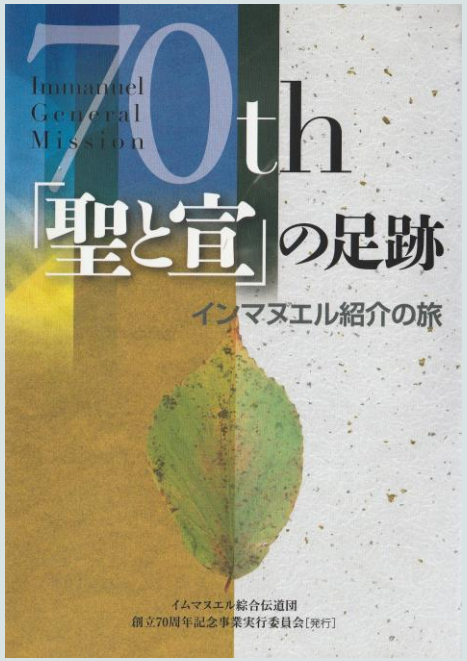
イムマヌエル綜合伝道団の歴史

創設者　蔦田二雄牧師
（1906～1971）

丸の内交通協会ビル
（丸の内中央会館）

私たちの教団の歴史
蔦田二雄（教団創設者個人）の歴史





生い立ち

1906年3月19日生まれ（今から118年前！）
蔦田顕理・千枝子夫妻の次男として、シンガポールで誕生する。（父親がシンガポールで歯科医を開業）
両親はメソジスト教会の敬虔なクリスチャンだった。

幼少期～中学を日本の岡山で過ごす。
中学生の時、シンガポールに帰省した時にメソジスト教会で洗礼を授けられる。ただし、新生（救い）経験はしていなかった。中学卒業後、シンガポールでケンブリッジ大学のジュニア・シニア課程を優秀な成績で修了し、ロンドン大学の法学部に進む。

1927年英国へ船で渡航中にクリスチャンのオーウェン・ガントレットと出会う。新生経験をガントレットから聞かれ、「生まれた時からクリスチャンだ」と答えた。

蔦田二雄、オーウェン・ガントレット

救い・召命

1927年（20歳）ロンドン大学で法学の勉強を始めた蔦田は、英国の宣教師B・F・バックストン、パジェット・ウィルクスとも交流を持つ。

1928年3月5日（21歳）、友人のガントレットと祈りの時をもつ中で、聖霊が働き、蔦田は主イエスを救い主として受け入れ、罪を悔い改めて、明確な救いの経験をした。

日本の外交官となるためにロンドン大学の法学部で学んでいた蔦田であったが、救われた年、日本から集会の奉仕に来ていた朝比奈協（かのう）師の集会で、伝道者としての召しを受ける。シンガポールでは兄が急逝し、大変な時期だったが、父・顕理に相談の手紙を書いたところ「Obey God」との電報がロンドンに届き、献身を決意する。同年7月にロンドン大学を中退し、日本へ。

献身・伝道者初期

1929年8月7日（22歳）、日本帰国を前に、シンガポールで半年を過ごした。きよめの経験をする。Iヨハネ1:7のみことばに立つ。

1930年に日本に帰国した蔦田は、中田重治師（日本ホーリネス教会・監督）が学院長を務める柏木聖書学院に入学する。同年、聖書学院でリバイバルが起こる。

日本ホーリネス教会の聖書学院の神学生だった蔦田は、日本橋教会の開拓を命じられ、そのまま卒業となり、教会開拓にあたった。1年の神学校生活だった。日本橋ホーリネス教会は開拓から、次々と救われる人々が興され、教会は大きく成長していった。

1933年、ホーリネス分裂事件が起こる。ホーリネス教会は中田重治の監督派と、車田秋二を中心とする五教授派に割れた。1936年に和解するが、中田を監督とする「きよめ教会」、車田を中心とする「聖教会」に分裂した。蔦田は渦中にあって、中田重治と決別し、聖教会に所属した。

中田重治

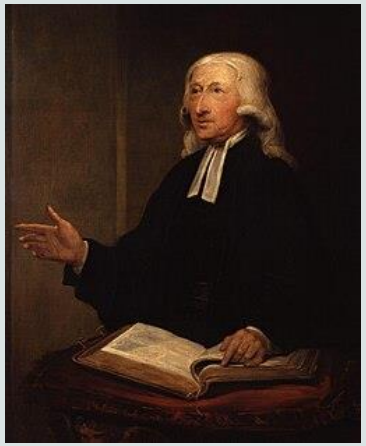
車田秋次

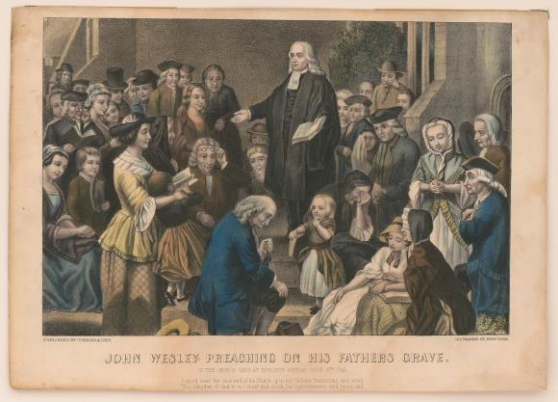
リバイバル・リーグ期

1938年、日本橋聖会でリバイバルが起こる。霊的に停滞していたホーリネス系列の牧師たちに聖霊の働きがあった。柏木聖書学院で蔦田と同期卒業のメンバーを中心に、有志が集まり、リバイバル・リーグが結成された。これは教団の枠を超えたホーリネス運動だった。ウェスレーのメソジスト運動を目指そうとした。リバイバル・リーグ運動に後のイムマヌエル立ち上げの同志となる松村導男、大橋武雄、川口始、山本岩次郎がいた。

リバイバル・リーグは宣教的精神、開拓的精神、戦闘的精神の三つを柱として強調し、実践した。特に宣教運動が盛んであり、日本各地での伝道、中国に宣教師を派遣していった。イムマヌエル教会は、戦後、新しく出発したが、その種・萌芽はリバイバル・リーグの中に見ることができる。

日本橋教会





リバイバル・リーグ期

1939年、リバイバルの結果、多くの献身者が興され、板橋区茂呂町に神学校を建設した。日本聖教会聖書学校塾（茂呂塾）と呼ばれる。蔦田は茂呂塾に住み込み、主事、舎監として塾生の教育と訓練にあたる。後のイムマヌエル教団のリーダーとなる朝比奈寛、矢木薫、岩城幸策、勝間田喜生、南場秋子、許州木は当時の塾生だった。

1941年、日本政府はキリスト教会を統制するため、すべての教派を一つの日本基督教団に集約した。聖教会は日本基督教団第六部となった。太平洋戦争に向かう不穏な局面の中、リバイバル・リーグの働きは拡大していった。

同年12月、日本は太平戦争に突入した。

リバイバル・リーグの天幕伝道

ホーリネス弾圧事件・幽閉

1942年6月26日、日本の治安維持法に基づき、ホーリネス圧が行われた。ホーリネス系列の牧師96名が逮捕された（2回の弾圧で124名）。蔦田も逮捕、起訴された。1944年5月に保釈されるまで2年間、獄中生活を余儀なくされる。日本基督教団はホーリネス弾圧を積極的に歓迎し、逮捕された牧師たちに辞職を求め、教会認可を取り消した。最終的に７名の牧師が獄死した。

２年間の獄中生活の中で、蔦田は神さまから「神は私たちとともにおられる」というインマヌエルのビジョンが与えられる。将来、自由の身になった時の新しい出発について思い巡らす。①聖書主義、②聖化の教えと実践（ジョン・ウェスレーのメソジスト運動）、③宣教、④自給原則

終戦・インマヌエル綜合伝道団創設

1944年の保釈から静養の時をもち、青山学院での生活を送っていた蔦田は、1945年8月の終戦により、新しい出発に向けて動き始めた。

1945年船橋市に新たな土地・建物を取得し、拠点となる場所とする方向で動く。リバイバル・リーグの同志だった長谷川元子、正子伝道師と岡山で再会し、10月21日、蔦田と長谷川姉妹で新しい出発の祈りをささげる（この日がインマヌエル綜合伝道団、創立記念日となっている！）。マタイ18:20

1946年、蔦田が創設した新しい団体はインマヌエル綜合伝道団（Immanuel General Mission）と命名され、関係者に挨拶状が送られた。医務部、伝道部、農耕部、保育部がスタートした。

第１次インマヌエル年会

終戦・インマヌエル綜合伝道団創設

挨拶状の抜粋　（50周年記念誌の文章を少し読みやすくした）

「神より受けし『幻』とその達成への熱誠は少しも変わらざるところであります。同時にまたこの通過せし大事件の事実[注：ホーリネス弾圧]と敗戦に打ちひしがれて崩壊沈淪（ほうかいちんりん）の一途に喘ぐ国家の現実は無視すべくもございません。

- 日本橋（都心）教会はその運営を星野栄一牧師に委譲し
- 事件前双肩に荷いしリーグ（同志会）の問題に関してもここに何らの人為的作為を及ぼすことなく率直大胆にこれを爾今（じこん）将来の神の御摂理に全託し
- その他何らの在来の既成制度の単なる踏襲、連続の観念にも纏（まつ）られず小生は全く神の指示に従って「新田の開拓」に歩を進むる事にいたしました。（エレミヤ4:3）

イムマヌエル・ゼネラル・ミッション（邦訳ではイムマヌエル綜合伝道団）という名称を冠し、旧臘（きゅうろう）船橋市本町１丁目１１９８（京成船橋駅裏、省線[注：現在のJR]船橋駅より徒歩４、５分）に敷地４５０坪弱とその中に病院に当つべき建物１棟を得て差当り同所にミッション事務所と医務部を置き遍（あまね）く祖国と世界に対（むか）って或（あるい）は伝道し、或は病院を設け或は教育機関を設け或は農場を擁して神の許したまうままに一歩一歩同胞への切実な救拯（きゅうしょう）、啓蒙、補育の戦に進み行きたく切望し祈り居る次第であります。

終戦・インマヌエル綜合伝道団創設

挨拶状の抜粋

　元よりかかる綜合的内容の戦は現下の祖国にとりまして最も願わしき又最も必要とせらるるところながら決して容易なる業にあらず財的に人的に重大なる需要を蔵（ぞう）せるものでありますが、神もし敗戦に泣く民を顧みたまうならば、必ずどこかにこの要を蔵し、時に及びてそれらを充当せしめ下さるを確信し、真にこの危急の時、有能同信の士の全国各地に蹶起（けっき）せられん事を望み待つ者であります。神はこれによりて祖国に更に根強きリバイバルを許したまうを自覚せる者であります。（１列王19:18、ローマ11:4、5）　（中略）
　戦敗れても「世界は我（わが）教区なり」との福音的矜度は喪失すべきもございません。「時」来たりて神は今一度、各自に再起の「新しき油注ぎ」を賜わん事を。一言にて御挨拶と感謝の辞までに。

昭和２１年1月

イムマヌエル綜合伝道団
（名は体を表す！）

「イムマヌエル」
Immanuel

聖書全体を貫く、神さまの約束
聖書を神さまの権威あるみことばとして信頼し、聖書のみことばに立つ。聖書の中心的なメッセージである聖潔を強調する。

約束・土台

「伝道団」
Mission

キリストの弟子の群れ、教会を日本、アジア、世界に生み出す集団、宣教の集団

使命

「綜合」
General

キリストの弟子をつくるためにあらゆることをする。

働き

イムマヌエルは厳密には、教団として始まったのではなく、
伝道団が教団を形成するようになった。

イムマヌエル綜合伝道団
（名は体を表す！）

ゼネラル（綜合）についての蔦田二雄の解説

「名称はゼネラル・ミッションという英語で示されたので、このゼネラルという語を綜合と訳してつけたのである。世界はわが教区であるとは、内外の伝道という意味と、また内面的にはその救霊と小さき者への教育、青年層を中心とせる農村への伝道、農耕による食料の増産、食うだけでない。キリストの愛を中心にする農村の建設、医務もまた医師協議会をも考えているのである。社会全体の各層の要求に答えるためにはゼネラルとすることが必要であると導かれたので、このような名称にしたのである。」（50周年記念誌から）

イムマヌエル綜合伝道団
（名は体を表す！）

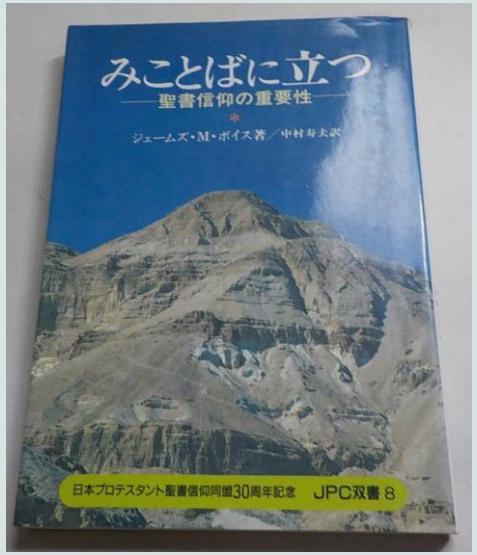
綜合的な働きでありつつ、その重心は教会の業であった。献身者が興されると、教会の増殖（開拓）にエネルギーを注いだ。全都道府県に一つの拠点教会を作り、そこからさらに増殖するビジョンがあった。こうしてイムマヌエル教団が形成されていった。

医療	伝道部（教会）	教育	農業
聖潔（メソジスト）	**宣教（日本、アジア、世界）**		
聖書			

イムマヌエル綜合伝道団と日本福音同盟（JEA）

蔦田二雄は、創設期はイムマヌエル綜合伝道団の、特に教団形成（教会、聖宣神学院の設立）に注力したが、やがて教団を超えた協力関係にも働きを広げていく。

（１）きよめ派の協力
　　福音文書刊行会（EPA）の設立。1958年
　　これはやがて日本聖化協力会（JHA）へとつながる。
（２）福音派の協力
　　日本プロテスタント聖書信仰同盟（JPC）の設立　1960年
「聖書は誤りなき神のことば」という聖書信仰に立つ福音派諸教会が集まった。日本の諸教会に影響を及ぼしていた自由主義神学、近代批評学による聖書の権威に対する挑戦などに対抗して、福音派は「聖書信仰」を中心にまとまった。JPC設立を機に、新改訳聖書の翻訳事業も始まることとなる。聖書信仰を土台とした福音派の結集であるJPCのためにも心血を注いだ。



イムマヌエル綜合伝道団と日本福音同盟

（３）ビリー・グラハムの伝道協力
1967年ビリー・グラハムが来日して、日本武道館で大規模な伝道大会を開催した。福音派の教会がビリー・グラハム大会に協力した。

（４）日本福音同盟の設立　1968年
日本福音連盟（JEF）ホーリネス系の教会の交わり
日本プロテスタント聖書信仰同盟（JPC）
日本福音主義宣教師団（JEMA）
三つの団体が基礎メンバーとなり、日本福音同盟が設立された。蔦田二雄は初代理事長として、福音派の結集に尽力した。

1967年
ビリー・グラハム大会
日本武道館

1968年日本福音同盟（JEA）設立総会

日本福音同盟（Japan Evangelical Association）

JEA理事会

聖書信仰を中心とするプロテスタント信仰基準を土台として、日本の福音派諸教団・教会の相互理解と交わりを促進し、共通する課題に力を合わせて取り組み、各専門委員会において宣教各分野での具体的協力、情報共有を行う。現在、５６の教団（約２０００教会）と４４の宣教団体が加盟している。

The JEA was founded on the base of biblical faith so that evangelical denominations and churches in Japan might have fellowship in Christ and work together in order to accomplish the great commission of Jesus Christ.

JEA members: 55 denominations（represent about 2,000 churches in Japan）
associate members: 41 mission organizations

日本福音同盟

総会 General Assembly

理事会 Board

総務局
Administration Office

総主事
General Secretary

専門委員会（Commissions）
① 宣教 Mission　②神学 Theology
③ 援助協力 Relief
④ 社会 Religious Freedom
⑤ 女性 Women　⑥ 青年 Youth

イムマヌエル綜合伝道団と
日本福音同盟

（５）1968年のJEA創設からイムマヌエルは深く関わってきた。
多くの先生が理事として、専門委員として日本の宣教協力に
貢献してきた。

（６）現在も多くの人材を派遣している。

理事	川嶋直行師
総主事	岩上敬人
国際渉外室	田辺寿雄
神学委員	國重潔志師
宣教委員	平瀬義樹師
女性委員	寺村真弓師
青年委員	吉村和記師

イムマヌエル綜合伝道団と
アジア福音同盟

（３）アジア福音同盟の設立
1983年、アジアの複数の各国福音同盟が集まり、アジア福音同盟（Evangelical Fellowship of Asia）が設立された。アジア福音同盟においてリーダシップをとったのが、イムマヌエル綜合伝道団の蔦田公義師だった。

蔦田公義師は1989年～2001年の12年にわたって議長の要職を務めた。蔦田師は各国福音同盟に、神さまへの信仰による自給原則と宣教のスピリットを伝えた。

植木英次師は2008～2020年にわたってJEA国際渉外室から派遣されてアジア福音同盟の理事として、特に2016～2020年には議長を務め、AEAのリーダーとして奉仕した。

日本福音同盟・アジアから見た
インマヌエル教団

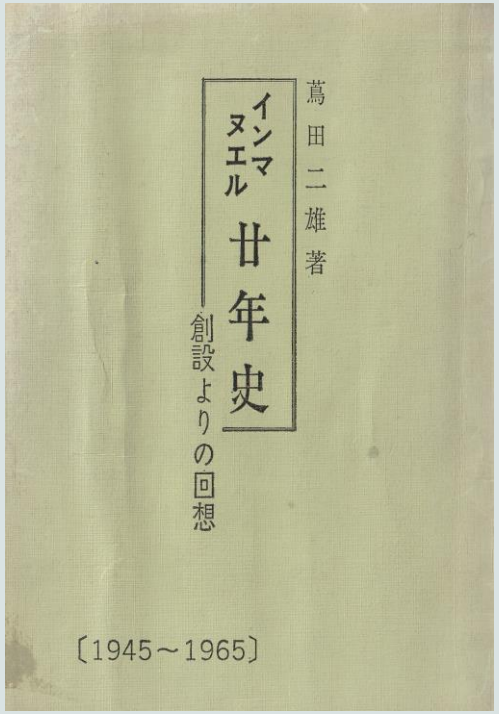
救世軍、ウェスレアン・ホーリネス教団、シオン・キリスト教団、基督兄弟団、基督聖協団、チャーチ・オブ・ゴッド、東京フリー・メソジスト教団、日本イエス・キリスト教団、日本聖泉基督教会連合、日本宣教会、日本伝道隊、キリスト伝道隊、日本フリーメソジスト教団、日本ホーリネス教団、イムマヌエル綜合伝道団

日本福音同盟に加盟する主要なきよめ派の教団

それぞれ歴史的背景は違うが、英国、米国のホーリネス運動やメソジストの流れの中にある教団の一つ。ホーリネス系列（きよめ派）の教会

イムマヌエルは日本のキリストのからだ、アジアのキリストのからだの一部であり、大切な役割を担っている。ともに日本宣教、アジア宣教を担うパートナーである。

しめくくりに

『インマヌエル20年誌　創設からの回想』　P.78～79から抜粋

「やはり、IGMがIGMとしての生命的特質を堅持しつつ発展を続けようとするならばそれは第一義的に所属伝道者たちの、
▼日々の個人宗教における真面目さ
▼ホーリネスの徹底
　①教理的究明を不断に怠らないこと
　②新生後の第二次的な瞬時経験を明確にし、その後の生涯的歩みと生活において「恩寵の手段」から離れないこと
　③ウェスレーが督励したメソジスト的な規律に自らを当てはめること
この起点をないがしろにされて、神学論、憲法論、運営の問題や伝道会、宣教会の議論をして事足れりとするがごとき状態にIGMが堕したならば神が戦後・・・IGMを起こしたもうた意義は終わる事となろう。